

会社説明会 トピックス

- (1) 平成24年度の資金調達
- (2) 今冬の電力需給の見通し

2012年11月7日

四国電力株式会社

<キャッシュ・フロー>

(億円)

		24年度上期
営業キャッシュ・フロー		▲ 14
投資キャッシュ・フロー		▲ 306
フリーキャッシュ・フロー		▲ 321
	配当金支払額	▲ 62
	債務償還	▲ 476
	外部資金調達額	871
財務キャッシュ・フロー		332
手元資金		11

<外部資金調達額内訳>

(億円)

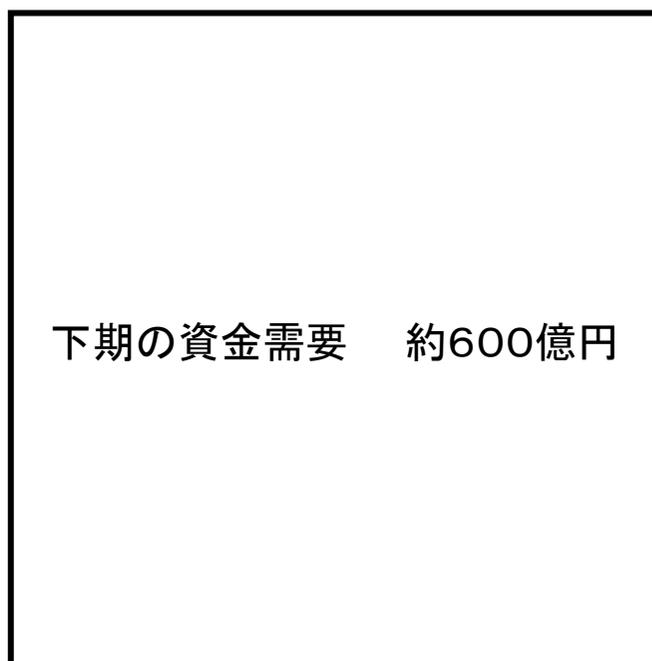
社 債	400
長期借入金 など	471
合 計	871

<参考> 社債借入金残高

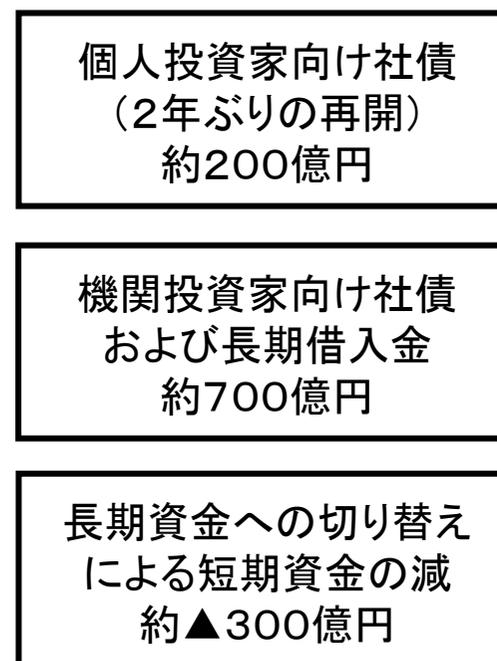
(億円)

24年3月末	24年9月末 (上期純増減)
6,718	7,112 (+394)

<資金需要>



<調達>



- 今冬の最大需要は、節電意識の定着で節電効果を昨冬の概ね2倍程度と想定。昨年度並みの厳冬の場合は、510万kWとなる見通し。
- 供給力は、火力で臨時の中間点検を実施し、定期検査を特例的に繰り延べることで、12月中旬から2月末までは全ての火力で運転可能な体制を整え、9.1%の予備率を確保できる見通し。
- ただし、火力発電所は高稼働が続いているため、トラブル等で当社の平均的な30万kWの火力が1台停止すれば、予備率は▲6%低下するため、決して楽観できる状況ではない。

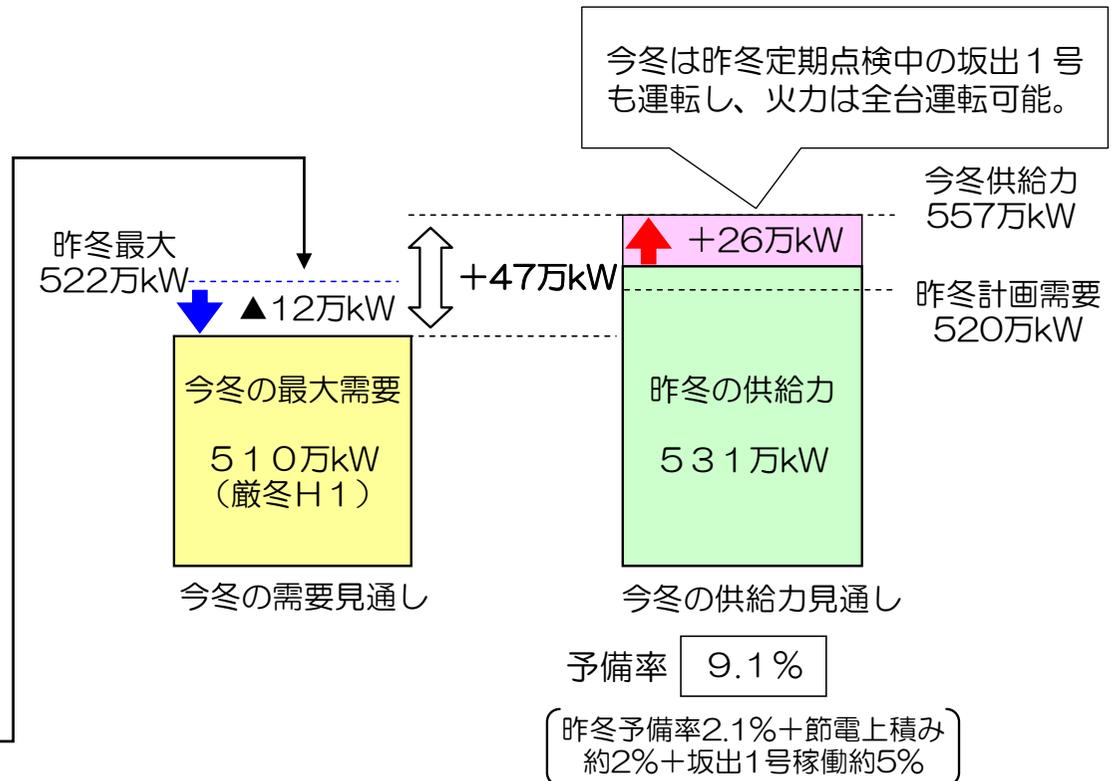
<今夏の最大電力の節電実績> (2010年度比)

節電効果	▲45万kW (▲8.6%)
産業用	▲13万kW (約▲7%)
業務用	▲18万kW (約▲10%)
家庭用	▲14万kW (約▲8%)

○今夏の節電実績▲45万kWのうち、政府の節電アンケートを踏まえて定着した節電分は、約7割の▲31万kW、昨年度の概ね2倍と評価。
○今冬も同様の節電効果を見込む。

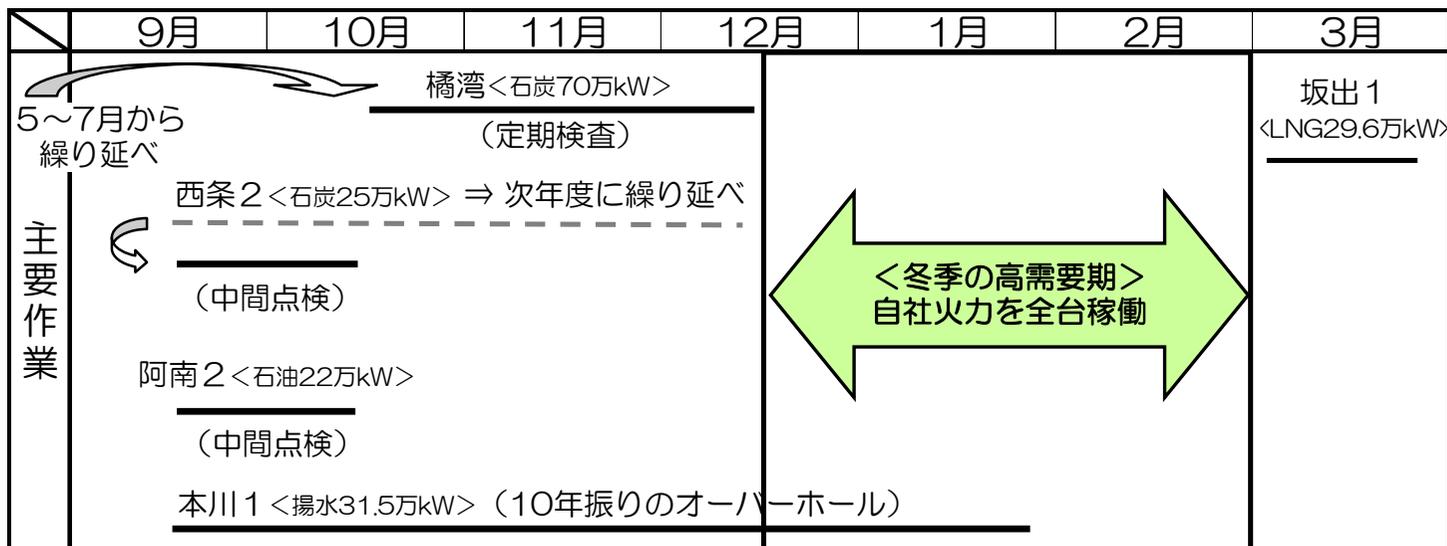
○冬季の節電効果 ▲27万kW
(今冬上積み分 ▲12万kW)

<今冬（2月）の需給見通し>



- 火力発電所は、高稼働が続いていることから、今冬にトラブル等で停止しないよう、臨時的な中間点検作業を実施するなど、細心の注意を払いつつ運用。
- 具体的には、夏季需要が一段落した9月中旬以降、阿南2号、西条2号の中間点検を約1ヶ月間実施するとともに、今夏の需給対策で繰り延べ中の橘湾発電所の定期検査を10月中旬以降、冬季の需要が高まる12月中旬までの間で実施。

<発電所での点検、作業計画（2012年9月以降）>



※坂出2号の定期検査は引き続き繰り延べ中。また、本川1号のオーバーホールは一部工事を繰り延べて工期短縮。

<参考> 電気の平均使用率※

- 今秋は、これまで繰り延べしてきた石炭火力の定期検査の実施などに伴い、電気の平均使用率が高めに推移

	今夏（8月）	今秋（10月）
平均使用率	85%	88%

$$\text{※平均使用率} = \frac{\text{実績最大電力の平均値}}{\text{当社供給力の平均値}}$$